

平成24(2012)年度 Syllabus (講義概要・授業計画) 用紙

科目名	里山学	サブタイトル	
対象学部	経営学部,経済学部,文学部,法学部,政策学部		
開講曜講時	前期 月3	配当年次	1年次以降
開講キャンパス	深草	担当者(カナ氏名)	ヨシヒロ シンイチ
単位	2	担当者(漢字氏名)	好廣 真一 (全9名)
備考	【(備考1)予備登録情報】3回生以上予備登録必要科目 【(備考3)受講対象】受講対象:2007年度以降入学生		

講義概要

サブタイトル					
講義概要	<p>リオデジャネイロで開催された地球サミット(1992年)は、地球環境問題の解決にむけた大転換点であり、日本においても環境行政の歴史に残る大転換がなされた。1993年には『生物多様性条約』を締結し、国際社会への責任として国内法が整備され、『環境影響評価法』(1999年施行)においては、生態系の体系的保全、身近な自然との触れ合い活動の場の確保の要項が新たに加わり、つづいて『新・生物多様性国家戦略:自然の保全と再生のための基本計画』(2002年)、『第3次生物多様性国家戦略~人と自然が共生するいきものにぎわう国づくりを目指して~』(2007年)が策定され、いま日本の社会は、開発・成長型から安定・成熟型にむけて進みつつある。</p> <p>エネルギー、木材、食料の輸入が超過する現代の日本において、人間活動が歴史的につくりだしてきた身近な自然である里地・里山(沿岸部では里海)の生物多様性の不可逆的な崩壊、人と自然とを結ぶ文化の消滅の危機が広く知られてきた。現在、地球規模での自然環境の保全・再生、そして日本各地でも新たな環境再生の模索が始まっている。人と自然との新たな共存を創成するためには、人間の智のあらわれである宗教・人文・社会・芸術文化・自然科学、そして地域社会の住民、行政との横断的連携・相互交流が不可欠であることが明らかになってきた。古代より開発が始まった近畿地方では、土地面積の65.6%が里山(二次林・植林地)であり、中山間地域の放置された里山・農林業・地域社会の振興も現在直面している緊急の課題である。</p> <p>2001年3月、龍谷大学は、絶滅危惧種のおオオカミの棲む瀬田学舎隣接地の里山(38ha)の大規模造成をやめ、里山を活用した新たな教育・研究と地域社会との連携にむけて動き始めた。以来この里山は「龍谷の森」と呼ばれるようになり、2004-08年には、「里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター」を、2009-11年には「里山学研究センター」を開設し、生物多様性・環境計測調査、社会人文科学・地域共生学調査研究により里山の総合研究を行っている。この講座は、それらの研究成果の公開の場でもある。</p>				
到達目標	<p>人文・社会・自然科学研究領域の交差・融合する世界を体験すること。 地域社会、行政との協働による新たな環境創成の活動を体験すること。 諸君が将来世代に引き継ぐべき環境を見通すこと。</p>				
講義方法	<p>リレー講義と野外実習2回 <野外実習 1> 大津市瀬田「龍谷の森」 4月21日(土) 午後1時から4時 <集合場所> 龍谷大学瀬田学舎バス停留所/「龍谷の森」里山保全の会との協働 <野外実習 2> 開催日は講義開始以降に発表する 2-1 「北山杉、北山林業地帯の森林文化の探訪」 場所:京都市北区中川、北区杉坂(スクールバス利用:定員50名) 2-2 「龍谷の森」里山保全の会の活動に参加 2-3 京都市東山区「京女鳥部の森」を歩く:京都女子大学 2-4 「京都モデルフォレスト運動」に参加 2-5 大津市環境部環境教育事業「自然家族事業」に参加 2-6 比叡山実習: スギ・ヒノキ植林から原生的森林植生(奥山)のモミ・ブナ林にふれる</p> <p>*実習1は必須、実習2は選択</p>				
授業時間外における予・復習等の指示					
系統的履修					
成績評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考		
	平常点	70%			
	小テスト				
	レポート	30%			
	定期試験				
	その他				
自由記載	各講義終了時にレポート用紙を配付し、次回に回収し各担当者が評価する(約70点)。野外実習報告(2回)(20点)、全講義終了後の総括レポート(10点)、以上を合計して100点満点とする。				
テキスト	著書・編集者名	書名	出版社名	定価	ISBN
	丸山徳次 宮浦富保 編	里山学のすすめ	昭和堂		
	自由記載				

参考文献	著書・編集者名	書名	出版社名	定価	ISBN
	丸山徳次 宮浦富保 編	里山学のまなざし	昭和堂		
	高桑進	京都北山 京女の森	ナカニシヤ出版	1,900円	4-88848-738-3
	自由記載	講義時に紹介する			
履修上の注意・担当者からの一言	リレー講義と2回の野外実習で里山を体験し理解する、龍谷大学ならではの科目です。				
オフィスアワー・教員との連絡方法					
参考URL	参考URL名	参考URL	参考URL名	参考URL	

平成24(2012)年度 Syllabus (講義概要・授業計画) 用紙

科目名	里山学	サブタイトル	
対象学部	経営学部,経済学部,文学部,法学部,政策学部		
開講曜講時	前期 月3	配当年次	1年次以降
開講キャンパス	深草	担当者(カナ氏名)	ヨシヒロ シンイチ
単位	2	担当者(漢字氏名)	好廣 眞一 (全9名)
備考	【(備考1)予備登録情報】3回生以上予備登録必要科目 【(備考3)受講対象】受講対象:2007年度以降入学生		

講義計画

No.	回数	担当者	学修内容	キーワード
1	1回目	丸山 徳次	里山の環境倫理～里山学のすすめ～ 丸山徳次(哲学・倫理学 文学部)	
2	2回目	谷垣 岳人	昆虫にとって里山とは何か 谷垣岳人 (生態学 政策学部)	
3	3回目	谷垣 岳人	野外実習 1 「龍谷の森」の自然観察(4/21(土)を予定,2コマ分) 土屋・好廣・谷垣	雨天延期の場合は、当日朝7時30分に下記の環境サイエンスコースブログに掲示します。 http://d.hatena.ne.jp/kankyo-science
4	4回目	土屋 和三	日本の植生：自然植生と二次植生の里山・草原の生態～「龍谷の森」の里山、比叡山の奥山の原生的植生のモミ・ブナ林 土屋和三(植物生態地理学 文学部) 土屋和三(植物学 文学部)	
5	5回目	山中 勝次	里山はどのように利用されてきたか？ 山中勝次(菌学 京都菌類研究所長)	
6	6回目	土屋 和三	京都モデルフォレスト運動に学ぶ 今井英行(京都府モデルフォレスト推進課)	
7	7回目	衣浦 晴生	ナラ枯れとカシノナガキイムシ 衣浦晴生(森林総合研究所)	
8	8回目	土屋 和三	特別講義「北山林業600年の伝統美」 中田治(中源株式会社取締役)	
9	9回目	谷垣 岳人	里山の民族生物学 阪本寧男(民族植物学 国際文化学部・京都大学名誉教授)	
10	10回目	谷垣 岳人	自然が育む環境人(かんきょうびと)づくり～大津市の自然体験型環境教育の実践と行動化～ 山本等(大津市役所 環境政策課)	
11	11回目	牛尾 洋也	里山の景観と国土保全機能について 牛尾洋也(民法 法学部)	
12	12回目	土屋 和三	里山がうみだした文化と芸術 江南和幸(金属学 理工学部名誉教授)	
13	13回目	高桑 進	生命環境教育論～割り箸一膳の革命～ 高桑進(京都女子大学)	
14	14回目	龍口 明生	仏教と森(アランニャ)とのかかわり 龍口明生(仏教学 文学部名誉教授)	
15	15回目	好廣 眞一	センサーカメラで調べた「龍谷の森」の生き物たち～2つの小池を作って何が変わったか？～ 好廣眞一(霊長類学 経営学部)	
16	16回目	好廣 眞一	里山再生の試み：トキの野生復帰、中国と佐渡の事例から 総括 > 谷垣・土屋・好廣 <全体	
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				